

2026 年度 編入学・転入学選抜 I 期 試験問題

次の＜経済学＞＜経営学＞＜法学＞から 1 つ選択し、論述しなさい。

＜経済学＞

以下の問題 1 ～ 5 まで政府の市場への介入として消費者に対して補助金が支払われる場合を考えます。

【問題 1】

図 1 のような設定において、補助金額の面積をアルファベットで答えなさい（例：A+B など）。

図 1

著作権の関係で、この部分は非公表としています。

出典：安藤至大『ミクロ経済学の第一歩 [新版]』図 5.13 より引用

【問題 2】

図 1 のような設定において、補助金がない場合の総余剰の面積をアルファベットで答えなさい（例：A+B など）。

【問題 3】

図 1 のような設定において、補助金導入後の総余剰の面積をアルファベットで答えなさい（例：A+B など）。

【問題 4】

補助金がない場合とある場合の違いは何か。図 1 においてはどの部分の面積か、アルファベットで答えなさい（例：A+B など）。また、この差の名称も併記しなさい。

【問題 5】

図 1 を活用しながら補助金を出すべきか否かを議論しなさい。

<経営学>

ポーターのファイブ・フォース（ファイブ・フォーシーズ・モデル、5つの競争要因）とは、「業界内の競争」・「新規参入者の脅威」・「代替品の脅威」・「買い手の交渉力」・「売り手の交渉力」という業界の収益性を決める 5つの要因のことである。ここでの「買い手の交渉力」や「売り手の交渉力」について、どのような場合に「交渉力」はより強力になるのか、という点を中心に説明しなさい。

<法 学>

B 男は道路を横断中、Y 運送会社のトラックにはねられ死亡した。被害者 B はその当時 A 女と事実上婚姻しており、A 女は事故当時、X を懐胎していた。事故後、Y 会社は B 男の親族等と示談をし、本件に関する一切の請求権を放棄する旨の約束をとりつけた。その後、X が出生してから、A 女は X の代理人としてこの事故により損害を受けたとして Y 会社に対して損害賠償請求の訴えを起こした。この請求は認められるだろうか、論じなさい。

2026 年度 編入学・転入学選抜 I 期 解答例

<経済学>

【問題 1】（配点 15 点）

$$B+D+H$$

【問題 2】（配点 15 点）

$$A+C+E+G$$

【問題 3】（配点 15 点）

$$(A+B)+(C+D+E+G)-(B+D+H)=A+C+E+G-H$$

【問題 4】（配点 15 点）

H, 死荷重

【問題 5】（配点 40 点）

次に政府が補助金を支出したことにより消費者余剰、生産者余剰、そして総余剰がどのように変化したのかを見る。

- ・消費者余剰：A+C から A+B に増加
- ・生産者余剰：E+G から C+D+E+G へと増加

つまり消費者余剰と生産者余剰を合計すると、補助金を与える前は A+C+E+G だった余剰が B+D の分だけ増加している。

生産者余剰も消費者余剰も増えているために望ましいことだといえそうだが、総余剰は減っている。

政府が支払う補助金の総額は、補助金額に取引量をかけた $B+D+H$ の面積

$(A+B)+(C+D+E+G)-(B+D+H)=A+C+E+G-H$ となり、 H の面積分だけ補助金導入前よりも余剰が減っている（死荷重の発生）。

総余剰のみ考慮すると死荷重が発生し、望ましくない。しかし、補助金とは、弱者救済の手段でもあるため、一概に総余剰分析のみで結論づけることはできないだろう。

<経営学>

【解答例】

買い手の交渉力は、次のような場合により強力になる。まず、買い手の数が少なく、規模が大きい場合、買い手からの値下げや品質向上の圧力が高まる。また、標準化されている商品やコモディティ化している商品の場合、買い手の交渉力は強いものとなる。そして、他社製品に乗り換えることが容易な商品の場合、買い手の交渉力が高まる。他には、買い手が自社で内製することが可能な場合、買い手の交渉力はより強力なものになる。

売り手の交渉力については、売り手の数が少なく、規模が大きい場合、値上げやサービスの簡略化などの要求がより強力なものになる。また、標準化されていない特殊な商品の場合、売り手の交渉力は強大なものになる。他社製品に乗り換えることが困難な場合も同様である。そして、自社で内製することが不可能な場合、売り手の交渉力はより強力なものになる。